

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウェーブ

*Linking
your
dreams*

JUNE 2021

83

● 社長インタビュー

長期ビジョン「LSV 2030」の
実現に向けて始動

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

● LINTEC ESSAY

木久扇一門、コロナ時代に
立ち向かう！

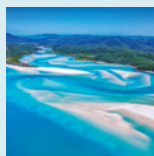
林家 木久扇

第127期
(2021年3月期)
決算情報

証券コード：7966

LINTEC WAVE

JUNE 2021 83



ホワイト・ヘブン・ビーチ
オーストラリアにある世界最大の
サンゴ礁「グレート・バリア・リーフ」
内に位置するビーチ。潮の満ち引き
により、青い海と白い砂浜が入り
組んだ絶景が広がる。

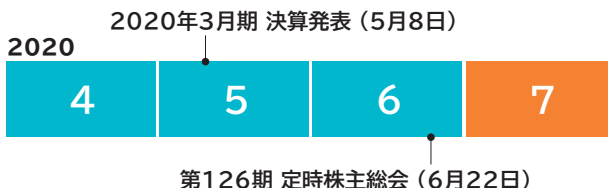
目次

- 2 1年間の主な動き
- 4 社長インタビュー
長期ビジョン「LSV 2030」の
実現に向けて始動
代表取締役社長 服部 真
社長執行役員
- 10 トピックス
- 11 FRONT LINE
- 12 LINTEC ESSAY
木久扇一門、コロナ時代に
立ち向かう！ 林家 木久扇
- 14 決算情報
- 16 セグメント情報
- 19 グローバルネットワーク
- 20 新聞広告シリーズ
- 21 会社概要／役員一覧
- 22 株式情報
- 23 アンケートへのご協力をお願い

(免責事項)

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

1年間の主な動き



5月18日

- ・凍結・結露面への貼付に適したチルド環境対応ラベル用粘着製品「CHILL AT」を発売

5月

- ・東海道新幹線の特大荷物スペースを案内する車両床面表示に当社フロアマーキングフィルムが採用



(提供: JR 東海)

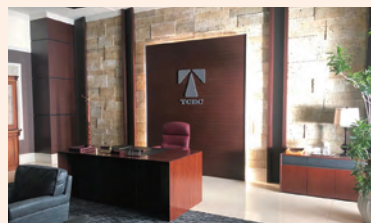
7月1日

- ・脱プラスチック需要に対応したラベル用粘着製品「PLALESS」シリーズを発売



Pick Up

7月～9月に放送されたTBSテレビの連続ドラマ「半沢直樹」の撮影セットに内装用化粧フィルム「PAROI」が使われ、ダークトーンの木目柄が重厚感を演出しました。



2021年3月期 第1四半期 決算発表 (8月7日)

8

9

10

11

12

2021

1

2

3

2021年3月期 第2四半期 決算発表 (11月9日)

2021年3月期 第3四半期 決算発表 (2月10日)

9月1日

- ・廃棄処分される小豆の殻を有効活用した特殊紙「小豆殻CoC」を発売
- ・エンボス調の色画用紙たくみ「匠のニューカラー R」を発売



当社は「ニューカラー Rシリーズ」の売り上げの一部を日本赤十字社に寄付しています。

11月2日

- ・使用済みプラスチックの再資源化事業を推進する「株式会社アールプラスジャパン」に資本参加

11月24日

- ・営業統括拠点の「飯田橋オフィス」を近隣のビルの2フロアに移転し、「文京春日オフィス」として業務を開始



11月25日

- ・耐水強度などに優れ、ぬれても破れにくい印刷用紙「プラスペース CoC」を発売



12月24日

- ・階段の手すりやテーブルなどに施工できる抗ウイルス加工を施した特殊粘着フィルムを発売



12月24日～27日

- ・「第89回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

3月1日

- ・99%以上の不透明度を実現した封筒用紙「ハーフトーンカラー 99N」の新色4アイテムを発売

3月24日

- ・抗ウイルス・抗菌加工を施したラベル用ラミネートフィルムを発売。透明ラベルと組み合わせてエレベーターのボタンにも使用可能



IRメール配信
サービスの
お知らせ

当社では新製品情報なども含め、株主・投資家の皆様へさまざまなニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスをご提供しています。配信をご希望の方は、当社IR情報サイトよりご登録をお願いいたします。



IR情報サイト: www.lintec.co.jp/ir

※ スマートフォンなどで左記の二次元コードを読み取ると、登録ページへ簡単にアクセスできます。

長期ビジョン「LSV 2030」の 実現に向けて始動

当社グループでは、2030年3月期を最終年度とする長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」（略称：LSV 2030）および2024年3月期までの3か年中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」を策定し、今期からスタートしました。長期ビジョン・新中期経営計画の概要と今後の見通しについて服部社長に聞きました。



2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率 **12%以上**

ROE（自己資本当期純利益率） **10%以上**

代表取締役社長
社長執行役員

はっとり まこと
服部 真

Q

まずは前期業績の振り返りをお願いします。

A

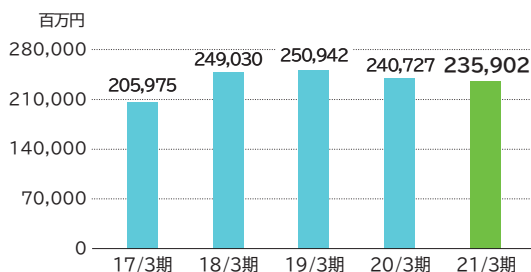
2021年3月期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大や米中貿易摩擦の影響を大きく受けましたが、期後半には持ち直しの動きが見られました。また、我が国においても秋口以降、中国や米国への輸出や個人消費に支えられ、景気は回復基調をたどりましたが、全体としては国内外ともに厳しい状況で推移しました。

このような経営環境の下、当社グループの業績は、半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられて順調に推移した一方、そのほかの製品は第3四半期以降、受注の回復が見られたものの、コロナ禍の

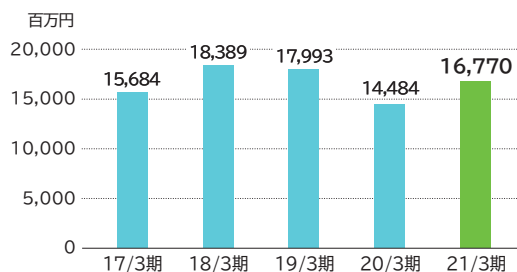
影響を受けて総じて低調に推移しました。

この結果、連結売上高は前年同期比2.0%減の2,359億2百万円、営業利益は同10.3%増の170億30百万円、経常利益は同15.8%増の167億70百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同18.6%増の114億7百万円となりました。期前半の低迷により一度は下方修正した業績予想を第3四半期の決算発表時には逆に上方修正するなど、先を見通すのが非常に難しい1年となりましたが、最終的に売上高は上方修正数値を上回り、利益面については期初予想も上回るという結果になりました。

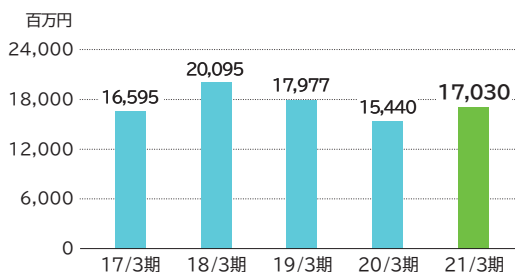
▶ 売上高



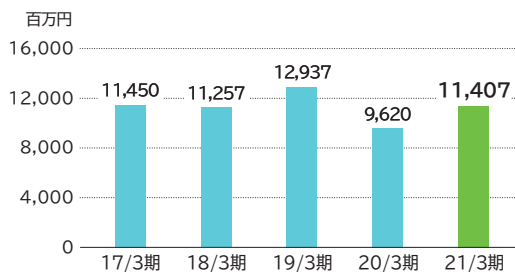
▶ 経常利益



▶ 営業利益



▶ 親会社株主に帰属する当期純利益



Q 次に長期ビジョン策定の背景について教えてください。

A 2020年3月期を最終年度とした前中期経営計画「LIP*-2019」が終了し、本来なら前期から新たな中期経営計画をスタートさせる予定でしたが、既存の事業展開の延長線上で3年間の経営計画を策定するやり方では、大きな未来を描くことはできません。そこで当社グループでは、まず長期ビジョンとして2030年のあるべき姿をしっかりと描き、その実現に向けたマイルストーン（中間目標）として3年ごとの中期経営計画を策定・推進していくこととしました。また、2022年3月期より収益認識に関する会計基準が適用となり、売上高や営業利益率に大きな影響を及ぼすことから、今期より長期ビジョン「LSV 2030」と新中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」をスタートさせました。

＊LIP：LINTEC INNOVATION PLAN



Q 「LSV 2030」の概要についてご説明ください。

A 地球温暖化や世界的な人口の増加、国内における少子高齢化と人口減少、そして現在も蔓延が^{まんえん}続く新型コロナウイルス感染症といったさまざまな社会問題がある中、当社では事業活動を通じて社会

的課題の解決に貢献していくことをあるべき姿と考え、持続可能性を意味する“サステナビリティ”をキーワードに長期ビジョンを策定しました。これを基に昨今、各企業に対応強化が求められているESG（環境・社会・

ガバナンス)やSDGs*を重視した企業経営を推進していく方針です。特に環境への配慮は何よりも重要なテーマと考えており、CO₂の排出量については2030年までに2013年度比で50%以上の削減を目標とし、2050年には実質ゼロを目指します。

また、これまで培ってきた独自の技術力をさらに高めていくと同時に、イノベーション(技術革新)によって企業体質の強靱化を図りながら新製品・新事業を創出し、持続可能

な社会の実現に貢献することを目指します。

最終年度となる2030年3月期の財務指標としては、売上高営業利益率12%以上、ROE10%以上を掲げ、採算性の向上と資本コストを大きく上回るリターンの実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

* SDGs (エス・ディー・ジーズ) : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。2015年に国連サミットで採択され、持続可能な社会の実現に向けた17の目標(ゴール)と169の指標(ターゲット)で構成される

長期ビジョン

「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030」(略称: LSV2030)

基本方針 イノベーションによる企業体質の強靱化と持続的成長に向けた
新製品・新事業の創出を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献する

重点テーマ

1. 社会的課題の解決

- (1) 環境…脱炭素社会・循環型社会の実現への貢献 など
- (2) 社会…人権の尊重、ステークホルダーへの情報開示とコミュニケーション強化 など
- (3) ガバナンス…コーポレートガバナンスの強化、取締役会の実効性のさらなる向上 など
- (4) 事業活動を通じたSDGs達成への貢献

2. イノベーションによる企業体質の強靱化

- (1) DXによる設計・開発・製造・物流・業務プロセスの変革
- (2) ビルド&スクラップによる省エネ、高品質、高効率、省人化を
目的とした新規生産設備の導入
- (3) 生産プロセス革新によるコスト競争力の強化
- (4) 低成長・不採算事業の構造改革とグループ会社の経営健全化
- (5) 強固な財務基盤の維持と資本効率の向上

3. 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

- (1) 技術革新による新製品・新事業の創出
- (2) 戦略的投資の拡大と機動的M&A
- (3) さらなるグローバルプレーヤーへの飛躍
- (4) ローカリゼーションの確立

2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率

12%以上

ROE
(自己資本当期純利益率)

10%以上

Q 「LSV 2030-Stage 1」では、どのようなことに取り組んでいくのでしょうか。

A まず、サステナビリティへの活動を強化するため、既存のCSR（企業の社会的責任）推進体制を再編したほか、この6月の定時株主総会での決議を受けて、取締役会の独立社外取締役比率を3分の1とし、ガバナンス体制を強化しました。事業面では、米国の粘着製品メーカーを買収し、生産能力の増強などを図りました。そのほか、今後3年間で成長事業の拡大や環境対応などに向けた設備投資を400億円計画しています。

各事業セグメントの取り組みについては、印刷・情報材事業部門では北米やアジア地域における生産拠点の拡充や営業力の強化に加え、QCD（品質・コスト・納期）の強化による収益改善も図っていきます。産業工材事業部門ではウインドーフィルムの高機

能製品の開発に努め、国内外での拡販に注力していきます。アドバンストマテリアルズ事業部門では半導体・電子部品関連市場の旺盛な需要に対応するため、製品の供給体制を強化していくほか、次世代デバイス製造プロセス用の新製品開発にも積極的に取り組んでいきます。オプティカル材事業部門については、次世代ディスプレイ用粘着剤の開発や車載用OCA（光学透明粘着シート）などの新製品開発と拡販に努めていきます。洋紙事業部門では、昨今高まりつつある脱プラスチック需要やフードロス（食品廃棄）の削減に応える高機能特殊紙を拡販していきます。加工材事業部門については、有機溶剤やポリエチレン樹脂などを使わない製品の拡充を推進していきます。

▶ 「LSV 2030-Stage 1」

2024年3月期（最終年度）経営目標		
売	上	高
2,550億円		
営	業	利
210億円		
親会社株主に帰属する当期純利益	140億円	
売	上	高
営	業	利
8%以上		
R	O	E
7%以上		

各事業セグメントの主な取り組み

印刷材・産業工材関連（印刷・情報材事業部門、産業工材事業部門）

- ・米国やアジア地域など海外での生産拠点拡充と営業力強化など
- ・国内外でのウインドーフィルムの拡販と高機能製品の拡充・展開 など

電子・光学関連（アドバンストマテリアルズ事業部門、オプティカル材事業部門）

- ・積極的な投資による半導体・電子部品関連製品のシェア拡大 など
- ・次世代ディスプレイ用粘着剤の開発 など

洋紙・加工材関連（洋紙事業部門、加工材事業部門）

- ・脱プラ・フードロス対応新製品の開発・拡販 など
- ・剥離紙の無溶剤化と脱ポリ化の推進 など

Q

今期の業績見通しと株主還元について教えてください。

A

2022年3月期の業績見通しにつきましては、ワクチン接種の進展や各国の経済対策の効果などに伴って景気は緩やかに回復していくものと見込んでおり、業績予想は増収・増益予想としました。なお、収益認識に関する会計基準の適用による売上高の減少額は、136億円と見ています。

▶ 2022年3月期 業績予想（前年同期比）

売上高	2,400億円（1.7%増）
営業利益	175億円（2.8%増）
経常利益	175億円（4.3%増）
親会社株主に帰属する当期純利益	125億円（9.6%増）

※ 上記予想は収益認識に関する会計基準適用後の数値となっており、前年同期比は参考値として記載しております。

また、株主還元につきましては、経営基盤の強化を図りつつ、各事業年度の連結業績を勘案し、安定的かつ継続的な配当を行っていくことを利益配分の基本方針としております。この方針の下、2021年3月期の期末配当金は当初予定どおり39円とし、年間配当金は中間配当金39円と合わせ、1株当たり78円とさせていただきます。2022年3月期の年間配当金につきましては、当期と同額の78円を予定しており、配当性向は45.1%となる見込みです。今後も強固な財務基盤を維持しつつ、資本効率の向上に努めるとともに、安定配当と業績拡大による株主還元のさらなる充実を図ってまいります。

Q

最後に株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A

新中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」の最終年度となる2024年3月期の経営目標は、今年3月の発表時点では売上高を2,400億円としていましたが、4月の米国メーカーの買収などを踏まえて見直しを行い、2,550億円に修正しました。利益面については変更しておりませんが、過去最高益を目指していきます。

気候変動やパンデミックといった社会問題は経営にとっての大きなリスクとなり

ますが、従業員一人ひとりが社会の変化に対してのアンテナを広げ、消費者の視点に立って行動することで、社会や顧客のニーズに応える新たな価値を創造してまいります。長期ビジョン「LSV 2030」の実現に向け、まずは着実に新中期経営計画を達成できるよう全社一丸となって邁進してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。